

今年も様々なクリスマス・カードをいただきました。嬉しくて、12月のカレンダーに貼り付けて、毎日ながめています。一面に一杯になりました。そのなかで、「オヤッ?」と思った一枚がありました。それはマルク・シャガール(1887年-1985年)のステンドグラスの写真のカードです。



調べてみるとこれはスイスのチューリッヒにある教会、Fraumünster の礼拝堂内陣のステンドグラスです。この教会は、Frau がついているので、聖母教会と間違われるそうですが、女性の修道院として、853年に建てられた教会です。ドイツ人王と呼ばれた、東フランク王ルートヴィヒ II が娘のために大きい修道院を建てたと言うことです。尼僧院は、政治的、経済的な思惑、また、宗教改革の波によって変容し、やがて尼僧院の建物は破壊されて、市庁舎(タウンハウス)となりました。現在は、尼僧院の跡地の礼拝堂が改革派の教会となっています。昔の名前をとって、尼僧院教会と呼ばれているということです。

シャガールに戻りますが、シャガールはユダヤ人の画家として有名です。東京で展覧会があった時も、旧約聖書に題材をとった絵が沢山あり、このような「聖母子像」のような絵があるとは考えたこともありませんでした。ユダヤ教徒には、新約聖書は存在しませんし、イエス様はキリストではなく、奇跡を行ったけれども律法違反の犯罪人です。カードの裏に印刷されていた文字を読んでも、「エッサイ(ダビデ王の父)の木に連なる子どもを抱いたマリア」と書かれていました。それでなるほどと納得したわけです。

この教会がシャガールに制作を依頼して、この窓ができました。内陣の5つの窓に、1. 預言者エリヤ、2. 族長ヤコブ、3. キリストの生涯、4. ユダヤ民族の祖国であるシオン、5. モーセと苦しむ民の姿、が描かれています。このステンドグラスはシャガールが高齢になった時に制作されていますが、変わらない旺盛なエネルギーと独特な鮮やかな色彩に溢れて、窓は光を受けて輝いているのでしょうか。このステンドグラスのため、この教会も有名になりました。この絵の幼い子どもは胸に十字架が置かれています。マリアは健康的、知的、そして強さを感じさせる母親に見えます。

シャガールの個性的な絵は、鮮やかな色彩、自由な構図、幻想的な情景などで、私を魅了します。描かれた世界は、夢の中のシーンのように思えてきます。そして、調べているうちにシャガールの

**"In our life there is a single color, as on an artist's palette, which provides the meaning of life and art.**

**It is the color of love."** という言葉に目を引かれました。

我々の人生には、画家のパレットの上にあるように、たった一つの色があるのです。

その色が人生と芸術の意味を出してくれるのです。それは愛の色なのです。

人生を描く色は「愛の色」一色で良いとシャガールは言っているのです。なに色と特定しているのではなく、「愛」色ですから、自分の表現したいように、色を用いて、「愛」になるように描けばいいということなのでしょう。豊かな、夢のような美しい世界を縦横無尽に描き出しているシャガールは、描くものすべてに愛を込めて描いているのだと知りました。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3:16)とあるように、神さまは「愛」色でこの世界を作られたのだと思います。そして「愛がなければ、無に等しい」(I コリント13:2b)と、イエス様をこの世に送って下さったのがクリスマスです。……………私も「愛」色で、人生を描きたいと、つい、思ってしまいました。